

国立公園における訪日外国人利用者数の推計結果

<推計の手順>

ステップ 1：「訪日外国人消費動向調査」の「訪問地選択肢コードリスト（ ）」の内、国立公園内の観光地を抽出する。

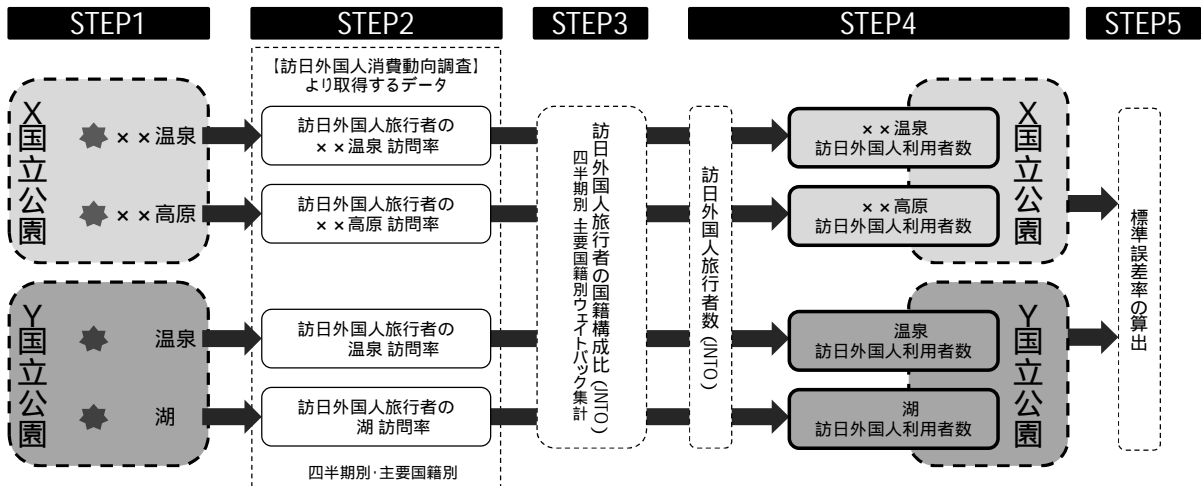
ステップ 2：訪日外国人消費動向調査データの「訪問地」を尋ねた設問で、ステップ 1 で抽出した国立公園内の観光地を回答しているサンプルを四半期別及び主要国籍別に集計し、訪問地毎の選択率（訪問率＝国立公園内観光地の回答数／訪問地設問における有効回答数）を算出する。

ステップ 3：訪日外国人旅行者数（日本政府観光局（JNTO）発表データ）の四半期別の国籍構成に合わせるため、上記の選択率に、四半期別及び主要国籍別ウェイトバック集計を行う。

ステップ 4：外国人旅行者数（JNTO）の総数に、ウェイトバック集計後の選択率（訪問率）を乗じ、訪日外国人利用者数（述べ利用者数、実利用者数）を推計する。なお、各公園の標本数に欠損値がある場合は、推定不可として取り扱う。

ステップ 5：標準誤差率を算出する。

訪日外国人消費動向調査では、「訪問地」はフリーアンサー形式（タブレット端末を用いた調査票の場合は予め選択肢を提示）での回答を求めているが、入力時に訪問地をカテゴリー化してコードを振っている。平成 29 年時点での訪問地コード数は 525 箇所（都道府県コード、空港コード除く）。



<推計手法について>

現状のサンプル数では、サンプルの 1、2 票の違いで推計値が大きく変動してしまうこと、調査対象空港に依存するため地方部のサンプル捕捉率が低くなること等の課題はあるものの、統計的かつ統計的指標算出の観点から、本推計手法が、誤差を推計できる方法であり、統計的理論依拠できる方法である。

<注意点>

- ・標準誤差率が 30%以上の公園については、サンプル数が少なく信頼性が低いので、参考値とする（取り扱いには十分注意し、転載や二次使用する際には、信頼性の低い参考値であることを明記し、その旨を理解して使用すること）。
- ・欠損値がある場合、推定不可として扱っている（利用者 0 とはしていない）。